

計画検討委員会 検討資料

(対策案検討にあたっての基礎情報)

平成28年1月30日
沖縄県

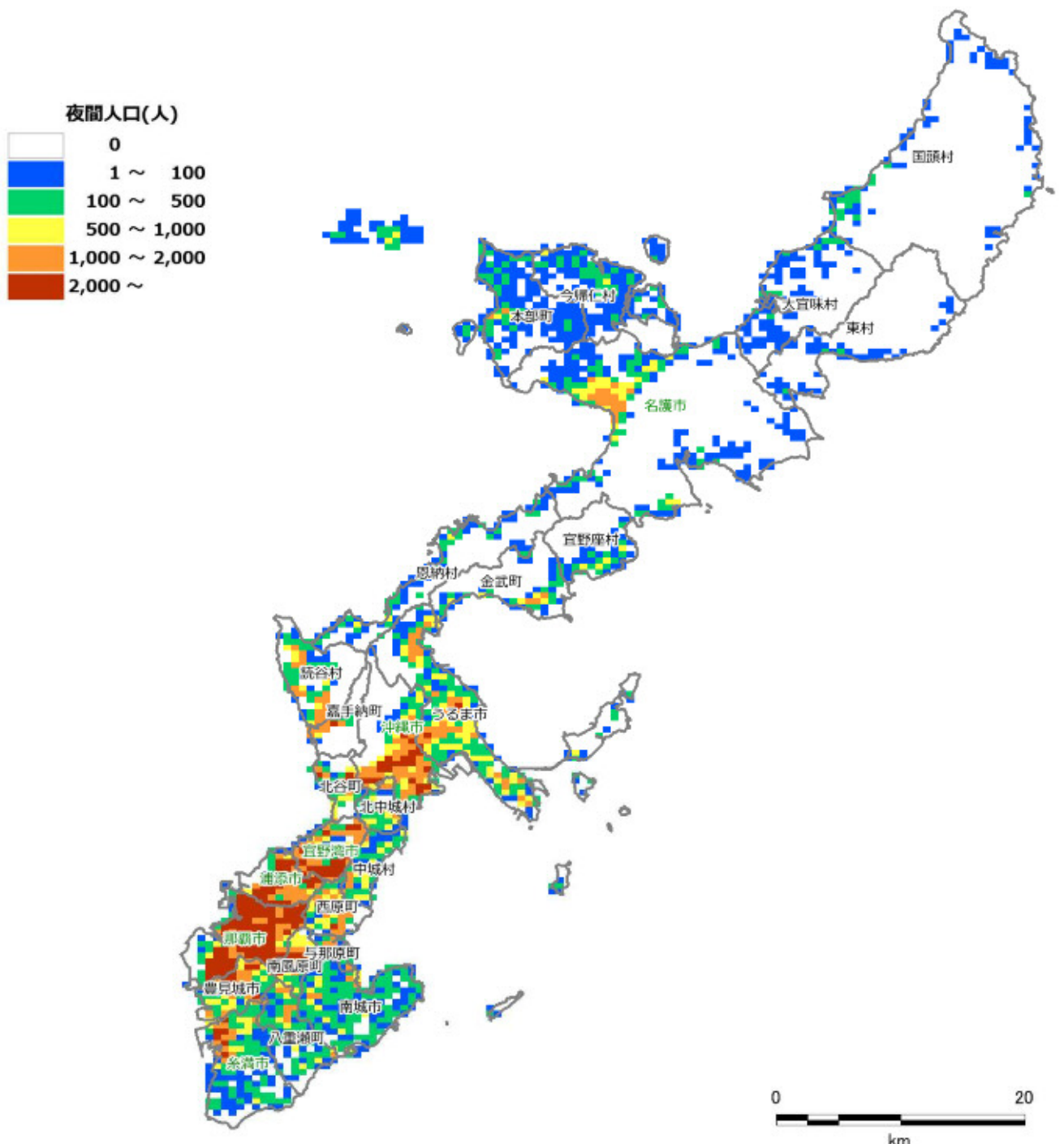
1. 目次

- (1) 人口分布
 - ① 夜間人口
 - ② 従業人口
 - (2) 土地利用
 - ① 土地区画整理事業及び基地返還予定地
 - ② 米軍提供施設(本島)
 - (3) 主要施設の分布
 - ① 県立病院及び地域医療支援病院
 - ② 空港・港湾(フェリーターミナル)
 - ③ 国際会議等大型施設
 - (4) 県民の移動の出発地・目的地(トリップの発生・集中)
 - (5) 分布交通量
 - ① 北部
 - ② 中南部
 - (6) 道路交通
 - (7) バス交通
 - (8) モノレール
 - (9) 観光
 - ① 宿泊施設(客室数)
 - ② 観光客訪問地域
 - ③ レンタカー利用者の目的地と地域別トリップ頻度
- 参考 最近の開発事例(新聞報道等)
- 参考 今後の開発動向(新聞報道等)

(1) 人口分布

① 夜間人口

- 主要都市である那覇市や浦添市、宜野湾市、沖縄市に夜間人口は集中している。
- 北部では名護市、南部では糸満市、豊見城市も比較的人口が多い。



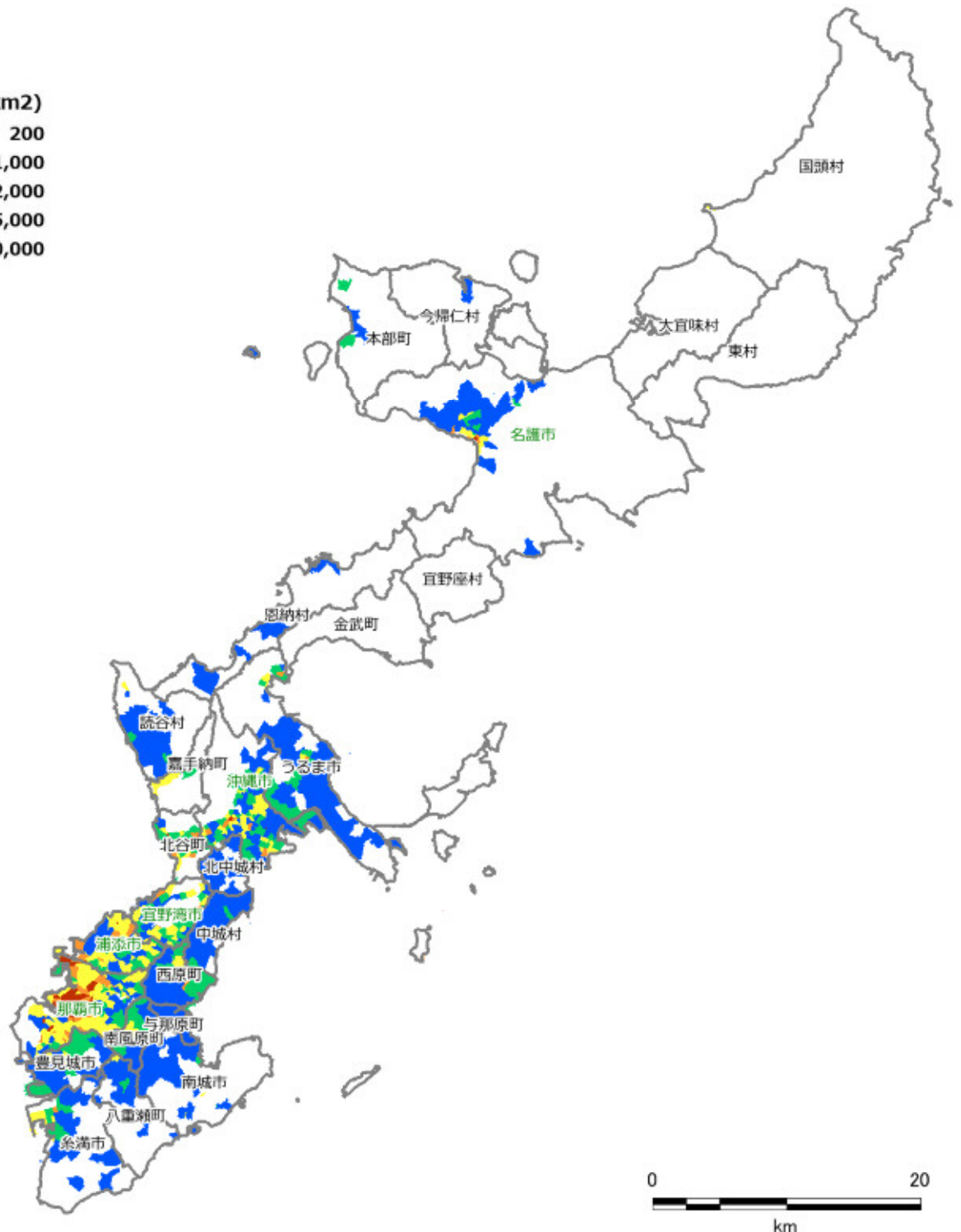
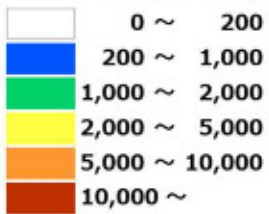
資料:平成22年国勢調査 500mメッシュ人口を基に作成

(1) 人口分布

② 従業人口

■ 従業人口密度は那覇市が全体的に高く、特に市中心部で高い。また、浦添市や宜野湾市、沖縄市も比較的高い。

従業人口密度(人/km²)

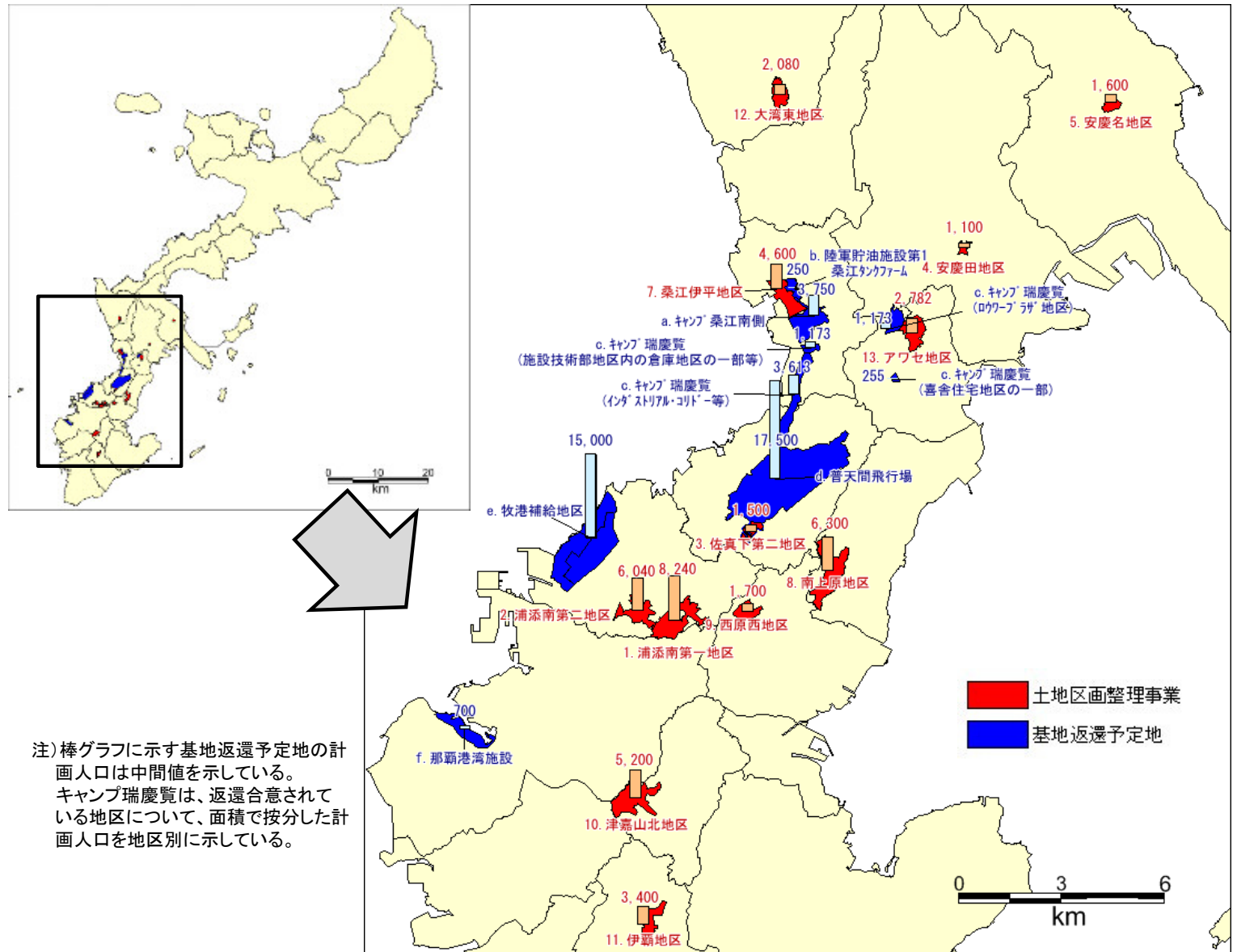


資料: 平成24年経済センサスの町丁目単位の人口を基に作成

(2) 土地利用

① 土地区画整理事業及び基地返還予定地

■ 現在、計画・実施されている土地区画整理事業及び基地返還予定地は、中南部に分布している



事業名	施工者	施工面積	施工期間	計画人口
1. 浦添南第一地区	浦添市	82.4ha	平成4年度～平成30年度	8,240人
2. 浦添南第二地区	浦添市	60.4ha	平成8年度～平成27年度	6,040人
3. 佐真下第二地区	宜野湾市	16.8ha	平成12年度～平成29年度	1,500人
4. 安慶田地区	沖縄市	8.67ha	平成21年度～平成30年度	1,100人
5. 安慶名地区	うるま市	16.2ha	平成15年度～平成28年度	1,600人
6. 竹原地区	宮古島市	23.6ha	平成17年度～平成29年度	1,500人
7. 桑江伊平地区	北谷町	45.8ha	平成15年度～平成29年度	4,600人
8. 南上原地区	中城村	90.4ha	平成5年度～平成28年度	6,300人
9. 西原西地区	西原町	23.7ha	平成18年度～平成28年度	1,700人
10. 津嘉山北地区	南風原町	71.4ha	平成5年度～平成30年度	5,200人
11. 伊覇地区	八重瀬町	42.5ha	平成9年度～平成27年度	3,400人
12. 大湾東地区	読谷村大湾東土地区画整理組合	25.4ha	平成21年度～平成30年度	2,080人
13. アワセ地区	北中城村アワセ土地区画整理組合	47.9ha	平成25年度～平成31年度	2,782人

施設名	面積	返還予定年度	計画人口
a キャンプ桑江南側	67.5ha	2025年度またはその後	2,500～5,000人
b 陸軍貯油施設第1桑江タンク・ファーム	15.8ha	2022年度またはその後	100～400人
c キャンプ瑞慶覧	490ha	2014年度以降	15,000～35,000人
d 普天間飛行場	480.5ha	2022年度またはその後	10,000～25,000人
e 牧港補給地区	273.7ha	2024年度以降	10,000～20,000人
f 那覇港湾施設	55.9ha	2028年度またはその後	400～1,000人

注) キャンプ瑞慶覧の面積及び計画人口は、返還合意されている地区に、返還可能性がある地区も併せて想定している。

資料:「沖縄県の土地区画整理・再開発2014 沖縄県都市計画・モノレール課」

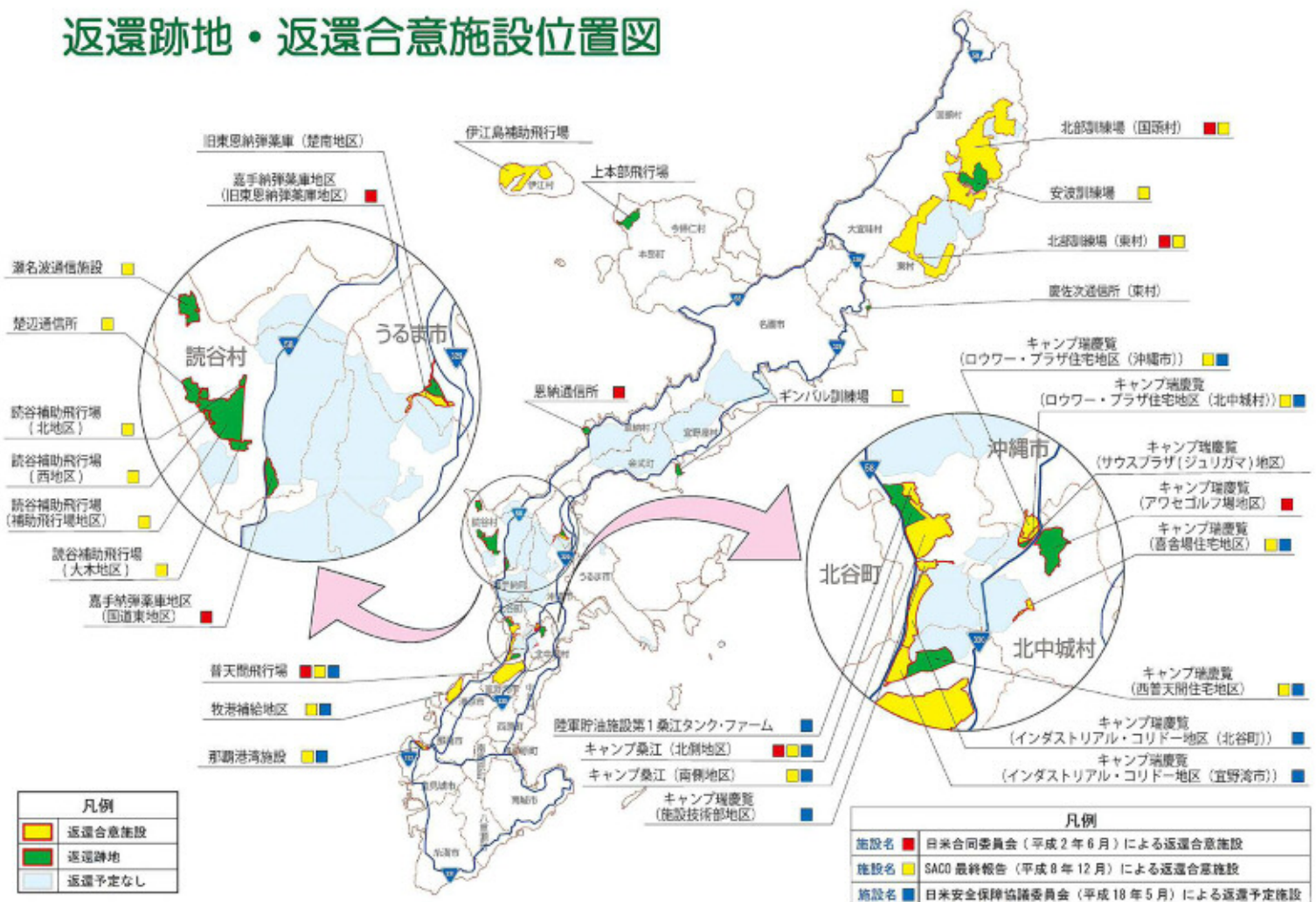
中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想 平成25年1月 沖縄県 関係市町村
外務省HP 沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画を基に作成

(2) 土地利用

②米軍提供施設(本島)

- 北部地域：米軍施設は、名護市から恩納村、宜野座村、金武町にかけて分布している。
- 中部地域：読谷村、嘉手納町、宜野湾市等に広く分布している。
- 普天間飛行場、牧港補給地区等の施設が返還合意されている。

返還跡地・返還合意施設位置図



資料：「返還跡地・返還合意施設ガイド」平成26年3月 内閣府沖縄総合事務局総務部跡地利用対策課

(3) 主要施設の分布

① 県立病院及び地域医療支援病院

■ 外来患者数の多い病院は、名護市、うるま市、那覇地区に集中している。

病院名	1日平均 外来患者数	データ年次
北部地区医師会病院	157人	平成25年度
沖縄県立北部病院	691人	平成26年度
敬愛会中頭病院	395人	平成25年4月～ 平成26年2月
沖縄県立中部病院	1,399人	平成26年度
仁愛会浦添総合病院	326人	平成26年度
かりゆし会ハートライフ病院	476人	平成26年度
那覇市立病院	777人	平成26年度
沖縄県南部医療センター・ こども医療センター	1,090人	平成26年度
友愛会豊見城中央病院	958人	平成26年度

資料：県立病院については、沖縄県病院事業会計決算審査意見書
その他については、各病院HP



(公社) 北部地区医師会
北部地区医師会病院

157

691

沖縄県立北部病院

○ 地域医療支援病院

地域医療を担うかかりつけ医等を支援する能力を備える医療機関。紹介患者の積極的な受け入れ、施設・設備の開放等、在宅医療の支援、医療機関に対する情報提供等を行う。



1,399

395

(医) 敬愛会中頭病院

沖繩県立中部病院

(医) 仁愛会浦添総合病院

326

那覇市立病院

777

476

(医) かりゆし会ハートライフ病院

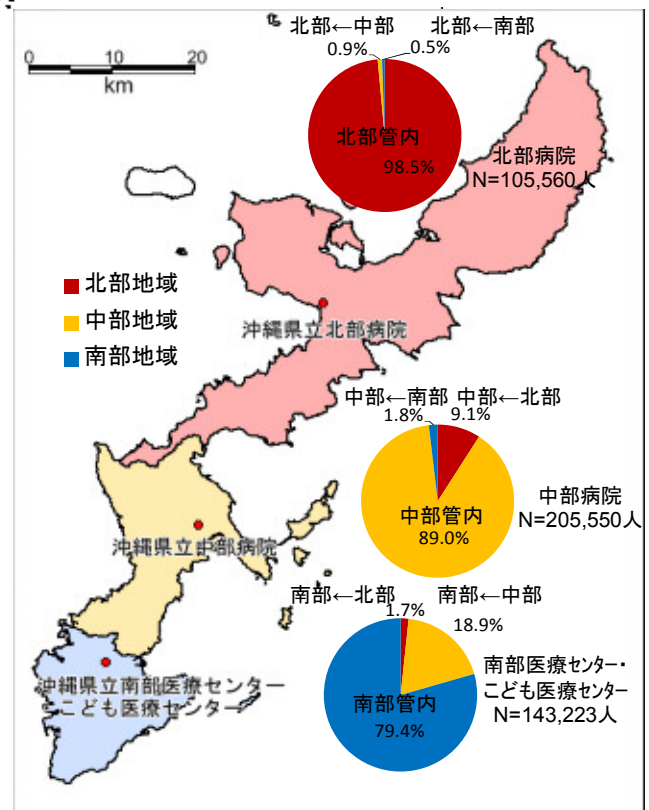
1,090

沖繩県立南部医療センター
こども医療センター

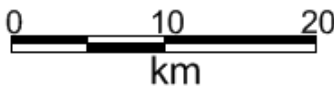
(医) 友愛会豊見城中央病院

958

県立病院の方面別外来患者の割合



資料：平成24年度沖縄県立病院年報を基に作成
(患者数は平成23年度外来患者(県内)実績)



(3) 主要施設の分布

② 空港・港湾(フェリーターミナル)

■ 那覇空港は、那覇市に位置している。

■ 旅客定期航路が就航する利用者の多い港湾は、那覇市、本部町、今帰仁村に位置している。

○ 空港利用者数(人)

	国内線	国際線	合計	データ年次
那覇空港	15,896,797	1,627,688	1,7524,485	平成26年

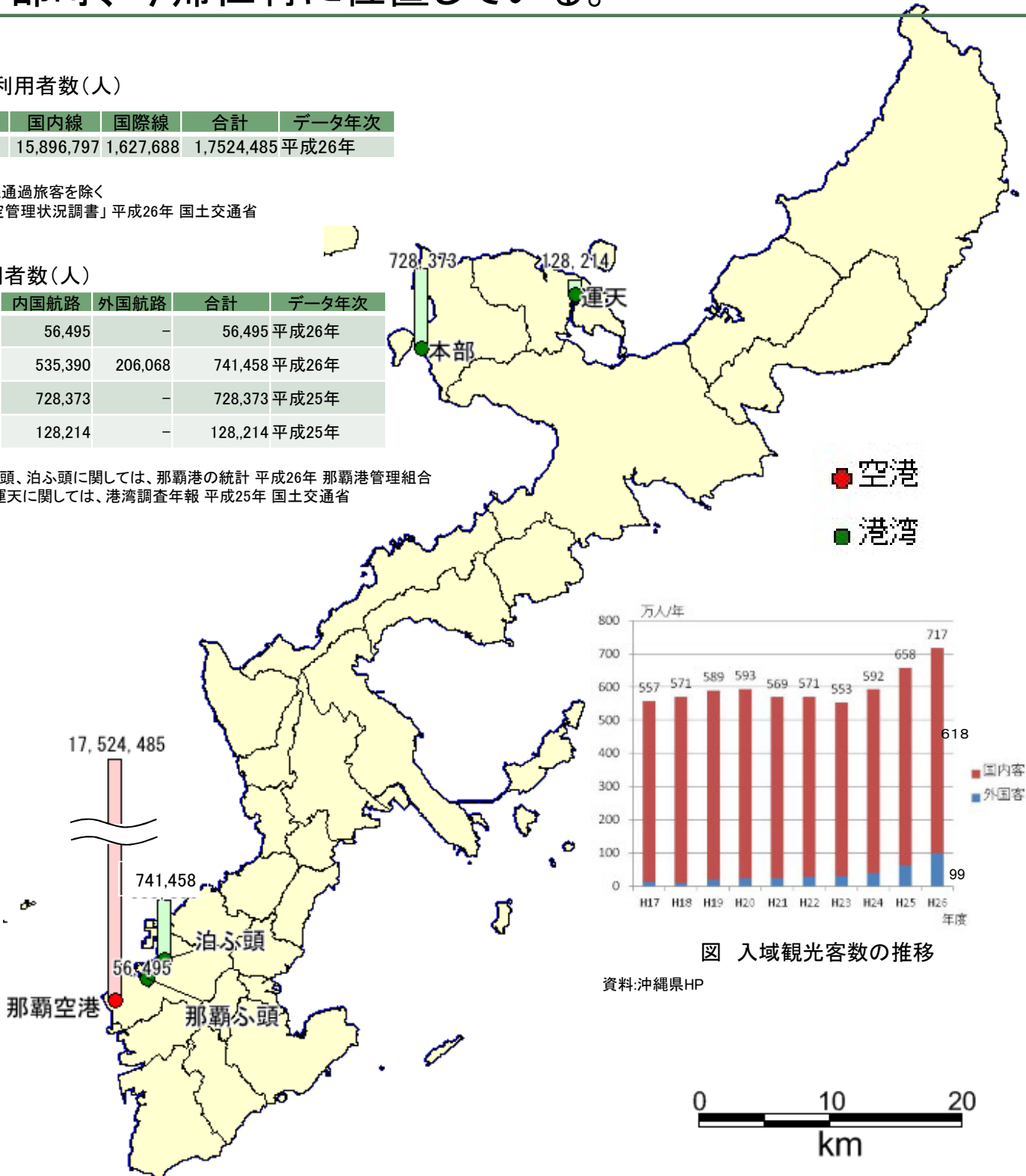
注) 国際線通過旅客を除く

資料:「航空管理状況調査」平成26年 国土交通省

○ 港利用者数(人)

	内国航路	外国航路	合計	データ年次
那覇ふ頭	56,495	-	56,495	平成26年
泊ふ頭	535,390	206,068	741,458	平成26年
本部	728,373	-	728,373	平成25年
運天	128,214	-	128,214	平成25年

資料:那覇ふ頭、泊ふ頭に関しては、那覇港の統計 平成26年 那覇港管理組合
本部、運天に関しては、港湾調査年報 平成25年 国土交通省



(3) 主要施設の分布

④ 国際会議等大型施設

■ 国際会議等大型施設は、名護市、宜野湾市にある。また、与那原町にMICE建設予定地がある。

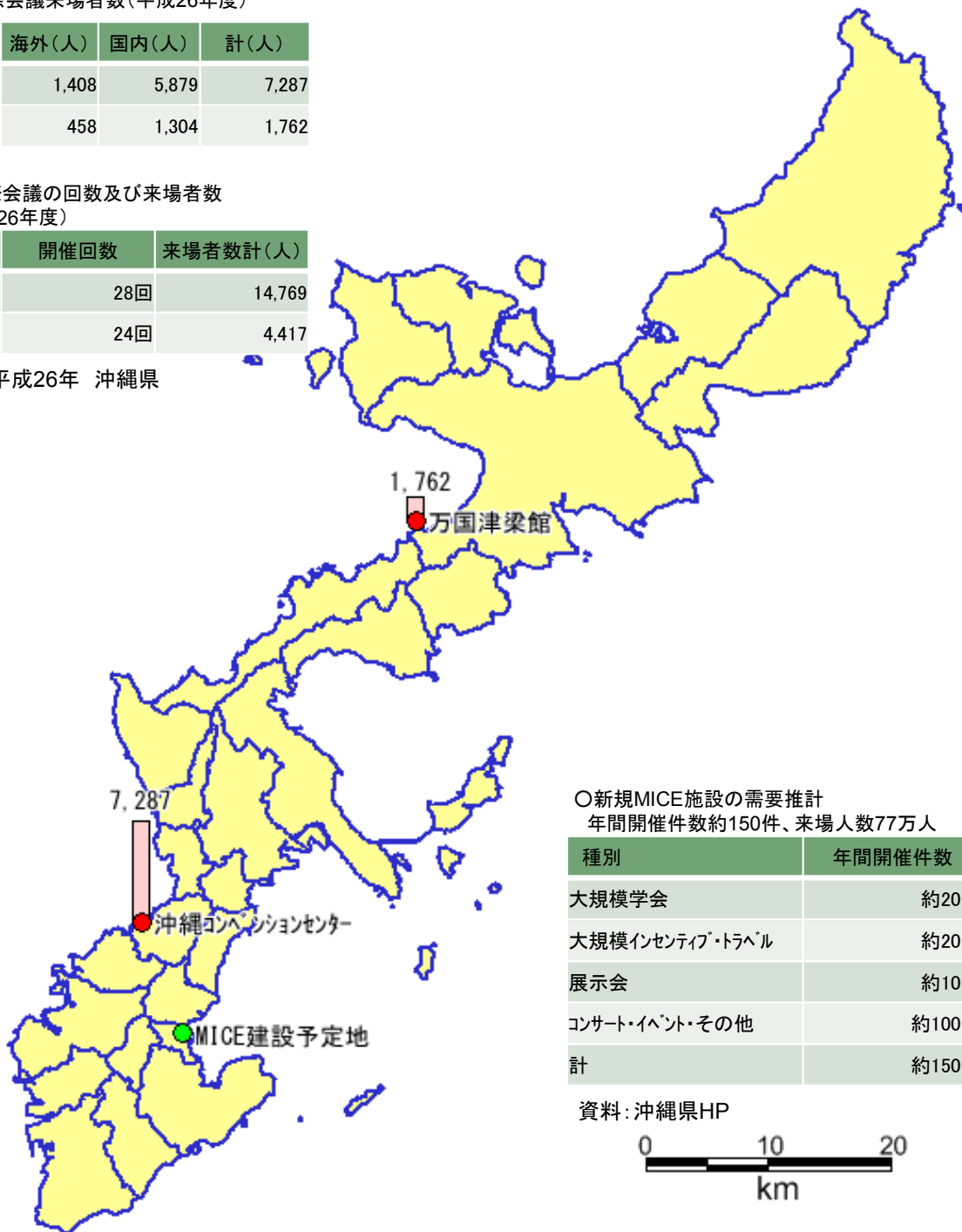
○施設別の主な国際会議来場者数(平成26年度)

	海外(人)	国内(人)	計(人)
沖縄コンベンションセンター	1,408	5,879	7,287
万国津梁館	458	1,304	1,762

○施設別の主な国際会議の回数及び来場者数
(平成24年度～平成26年度)

	開催回数	来場者数計(人)
沖縄コンベンションセンター	28回	14,769
万国津梁館	24回	4,417

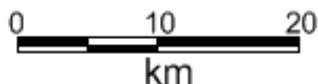
資料: 観光要覧 平成26年 沖縄県



○新規MICE施設の需要推計
年間開催件数約150件、来場人数77万人

種別	年間開催件数
大規模学会	約20件
大規模インセンティブ・トラベル	約20件
展示会	約10件
コンサート・イベント・その他	約100件
計	約150件

資料: 沖縄県HP



(4) 県民の移動の出発地・目的地(トリップの発生・集中) ○全手段

- 那覇市での発生・集中密度が高い。
- 浦添市では国道58号と国道330号にはさまれるエリア、宜野湾市では普天間飛行場東側エリアで密度が高い。
- 沖縄市は中心部とその周辺エリアで発生・集中密度が高い。

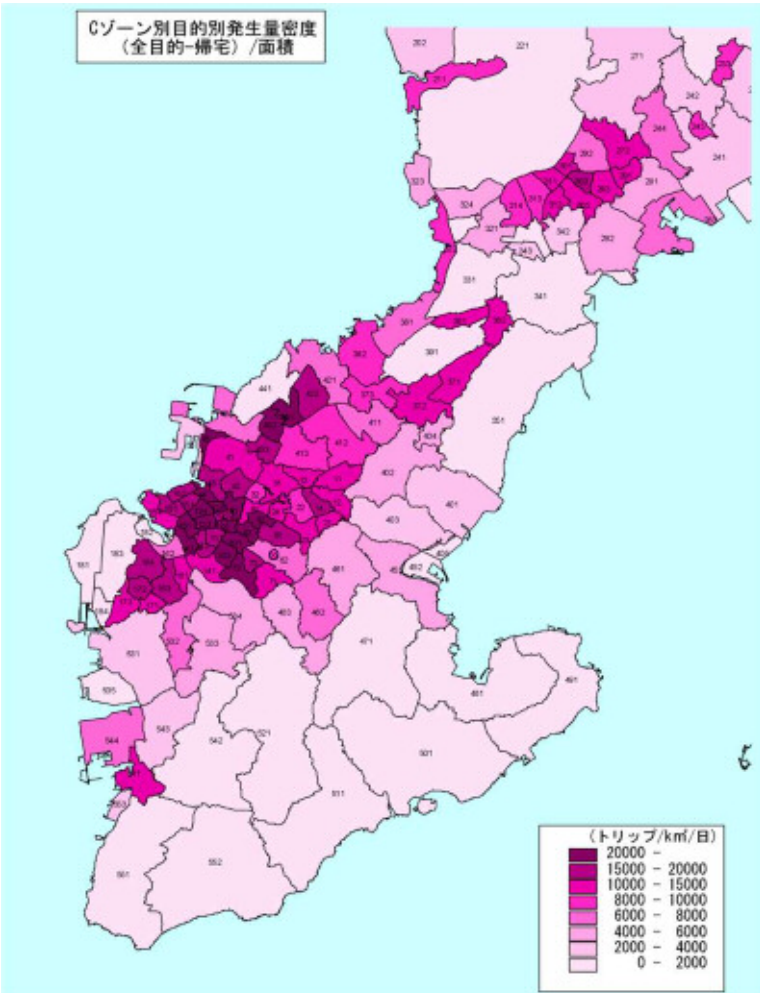


図 発生交通量密度

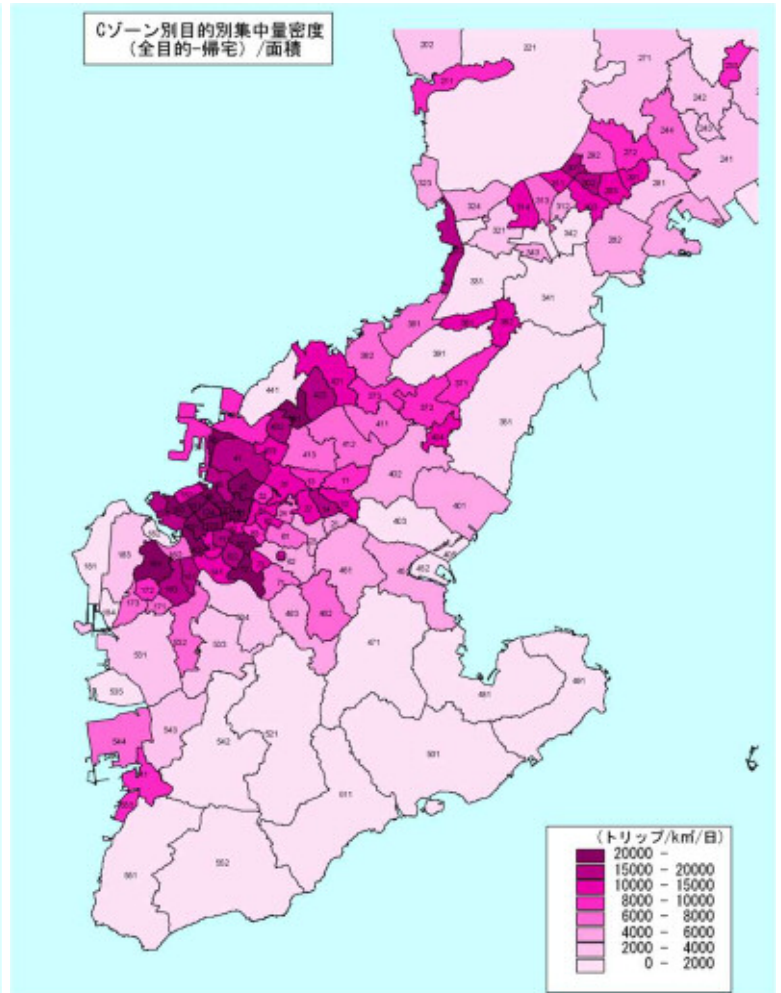


図 集中交通量密度

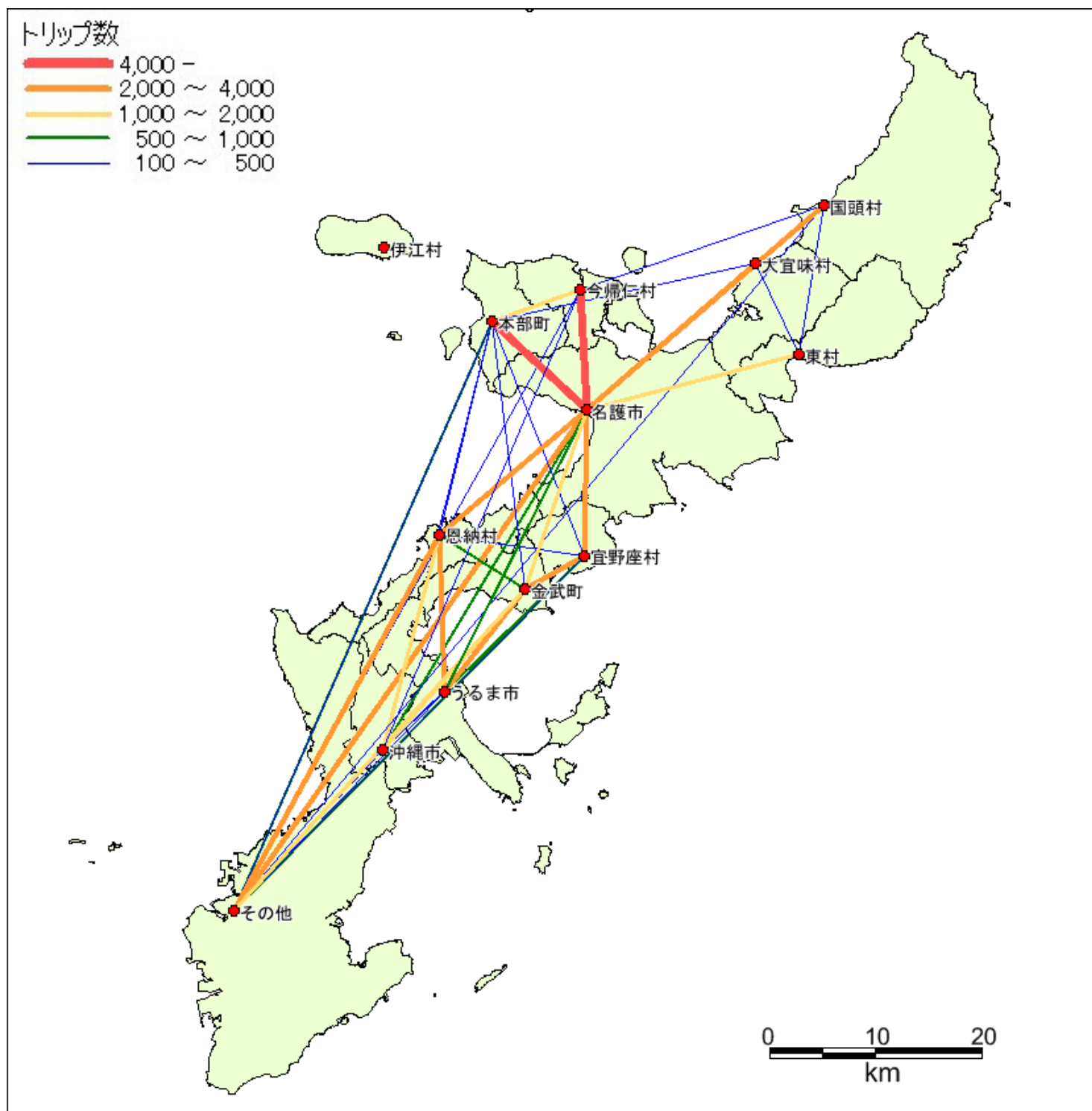
図の発生交通量密度、集中交通量密度は、帰宅を目的としたトリップを除いている。

資料 第3回沖縄本島中南部都市圏 パーソントリップ調査データを基に作成
(調査は平成18年度に実施)

(5) 分布交通量

① 北部

■ 名護市を起終点とする交通量(トリップ)が多い。

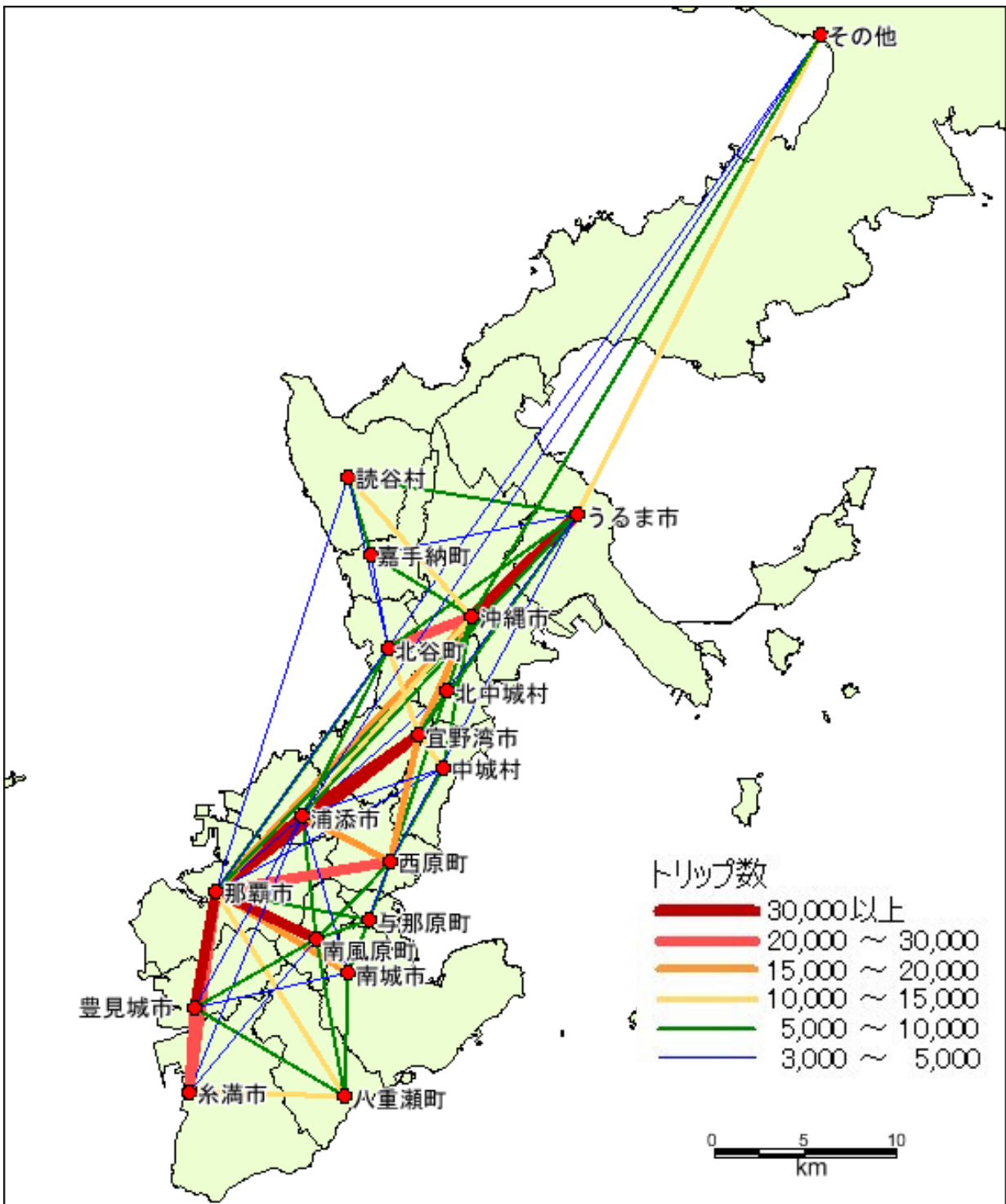


第1回沖縄北部広域市町村圏パーソントリップ調査を基に作成
(調査は平成23年度に実施)

(5) 分布交通量

② 中南部

- 那覇地区は、那覇市と豊見城市、南風原町、浦添市、宜野湾市間の交通量(トリップ)が多い。
- 中部地区は、沖縄市ーうるま市間の交通量(トリップ)が多い。

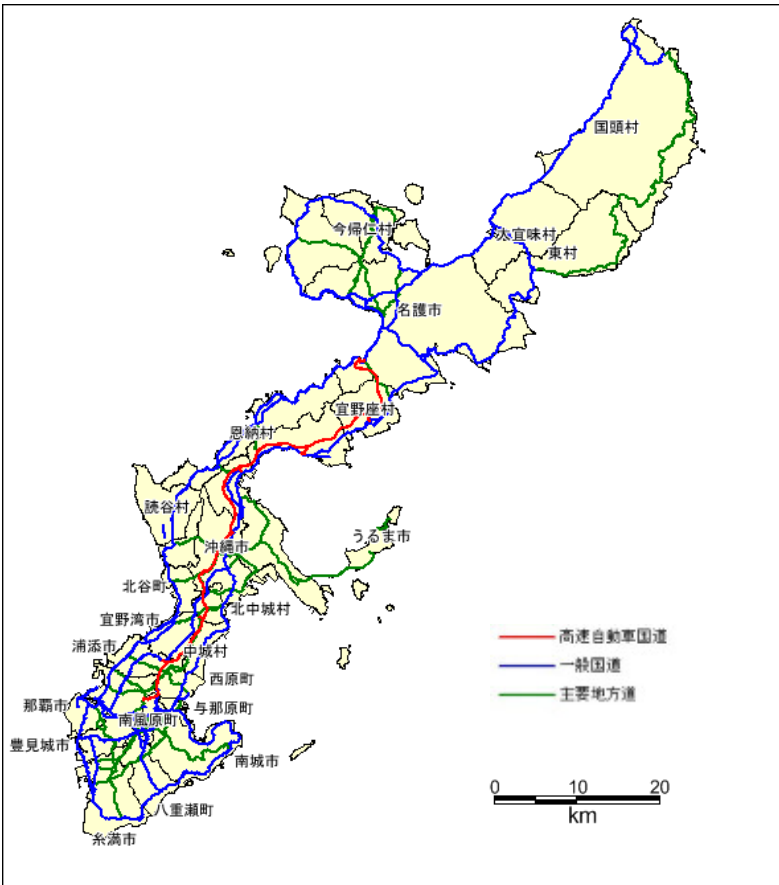


資料 第3回沖縄本島中南部都市圏 パーソントリップ調査データを基に作成
(調査は平成18年度に実施)

(6) 道路交通

① 現況道路交通量

■ 中南部の国道58号や国道330号の道路混雑が高い。



混雑度: 交通量に対する交通容量の比
 (=交通量/交通容量)
 <<混雑度の目安>>
 【1.0未滿】
 昼間12時間を通して、道路の混雑がなく、円滑に走行できる
 【1.0~1.25】
 昼間12時間のうち道路が混雑する可能性のある時間帯が1~2時間(ピーク時)である
 【1.25~1.75】
 ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性が高い状態
 【1.75以上】
 慢性的混雑状態を呈する

資料 平成22年度道路交通センサスを基に作成

注) 高速道路無料化社会化実験実施時のもの

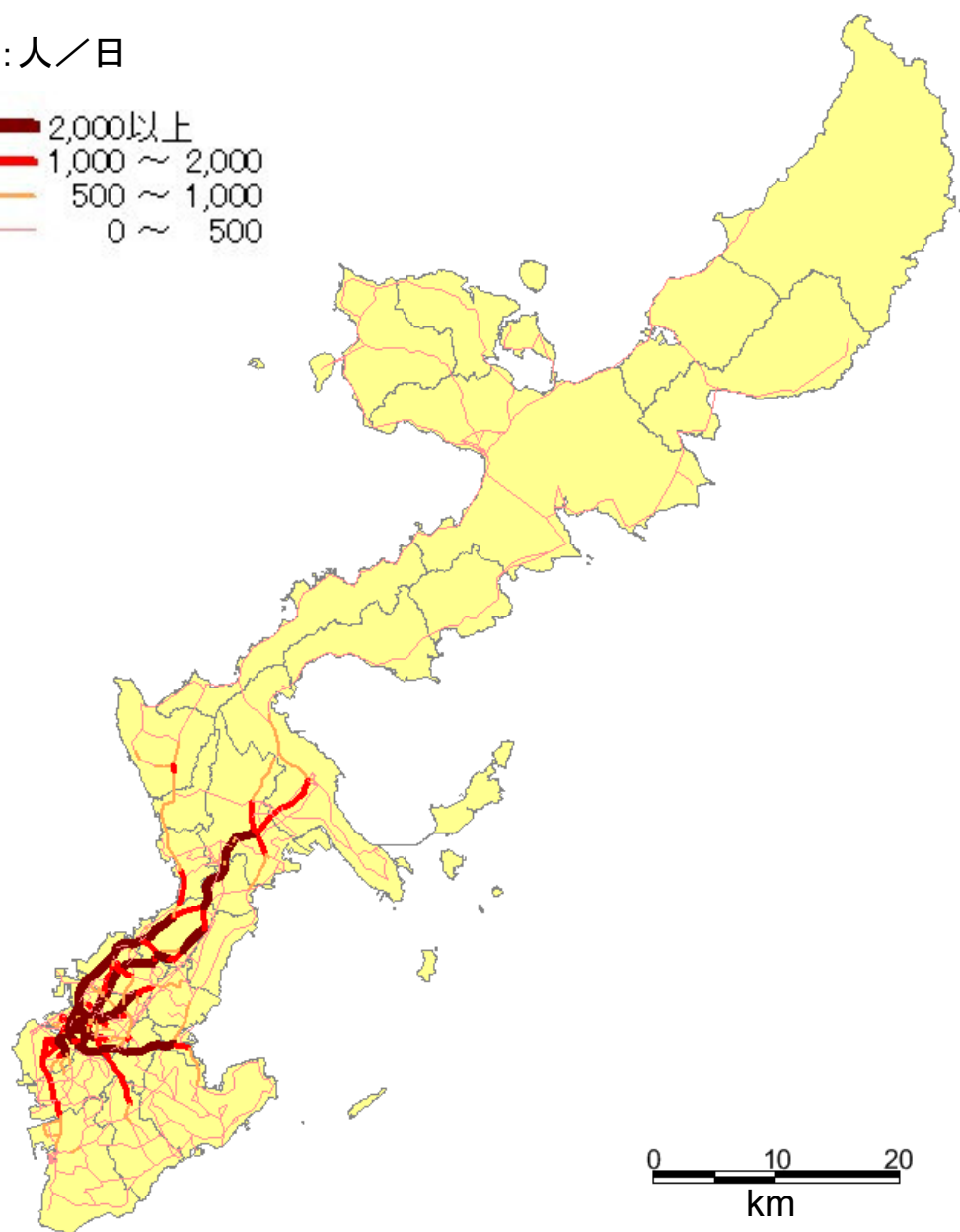
(7) バス交通

○バス利用者の断面交通量

■幹線道路における日当たり2,000人以上のバス利用者数は、以下の範囲が多い。

- ・国道58号：那覇市～宜野湾市
- ・国道330号：那覇市～沖縄市
- ・国道329号及び国道507号：那覇市～与那原町

単位：人／日

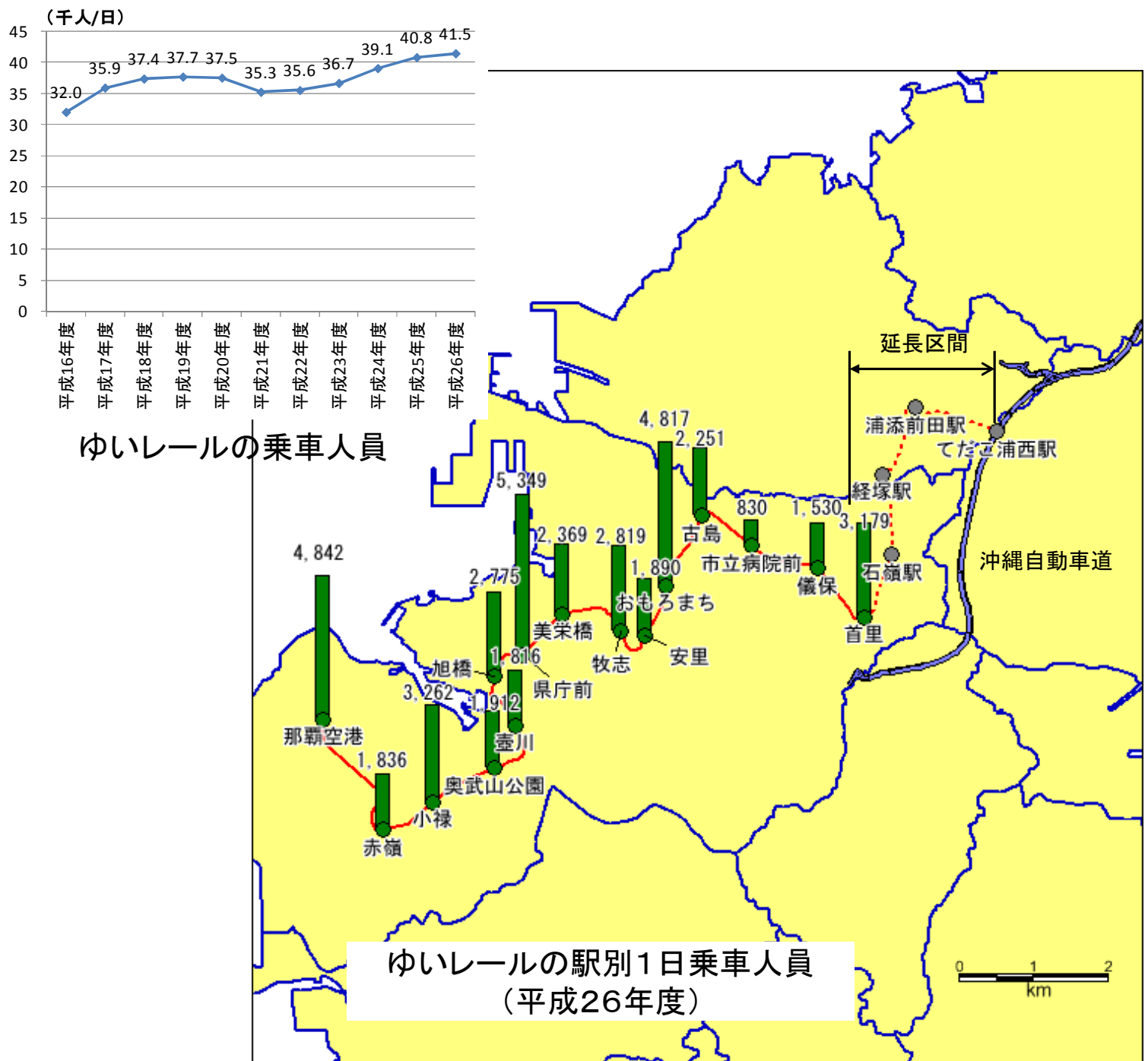


断面交通量とは、区間ごとのバスに乗っている人数

資料 平成26年 沖縄本島路線バス利用促進方策検討に向けた調査のサンプル調査データを基に作成

(8)モノレール

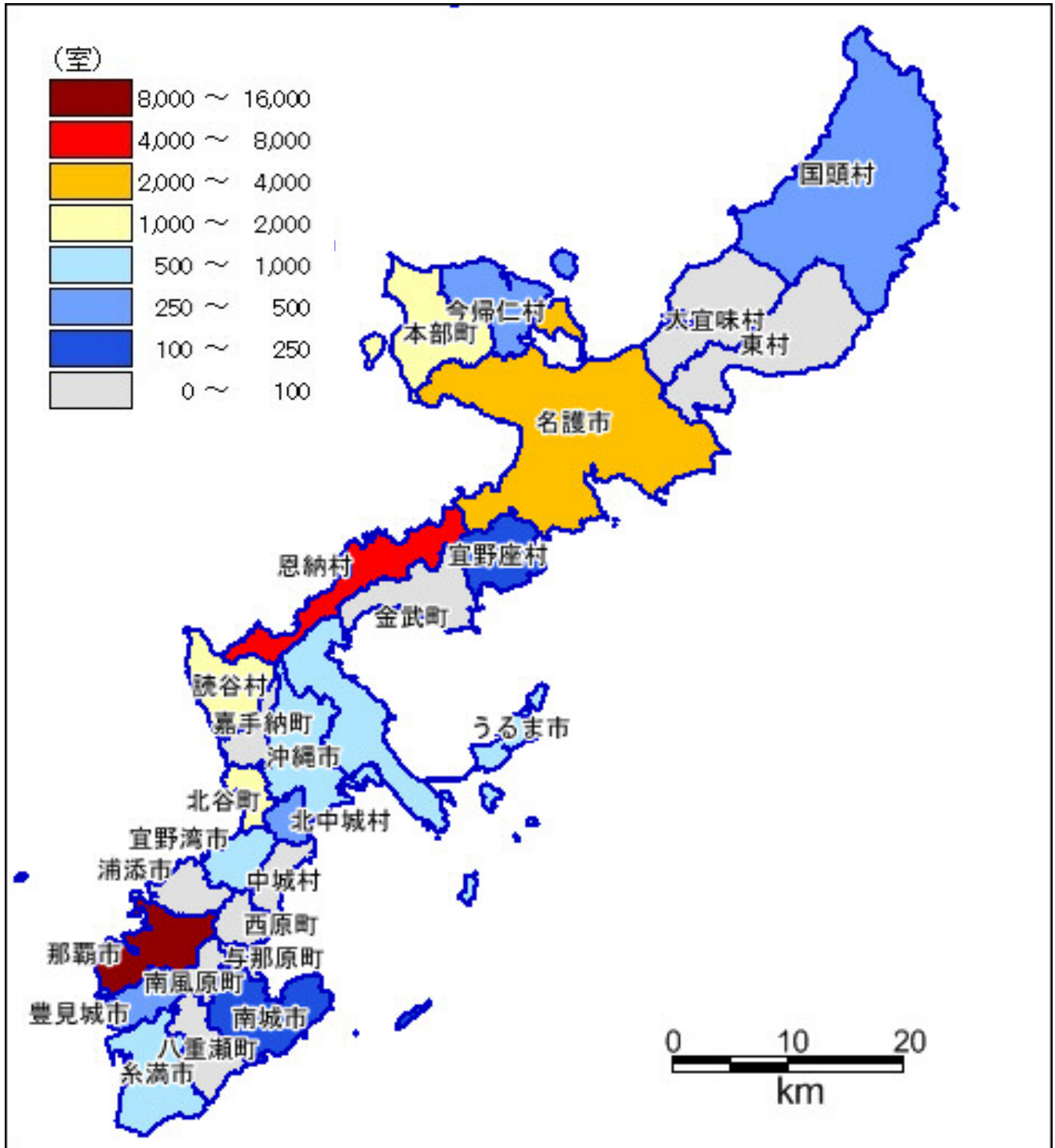
- ゆいレールは、那覇空港から首里駅まで運行されている。
- 首里駅から西原入口(てだこ浦西駅)への延長整備中(2019年開業予定)。
- 高速バス等との連携を図るため、西原入口(てだこ浦西駅)で、沖縄自動車道と接続。



(9) 観光

① 宿泊施設(客室数)

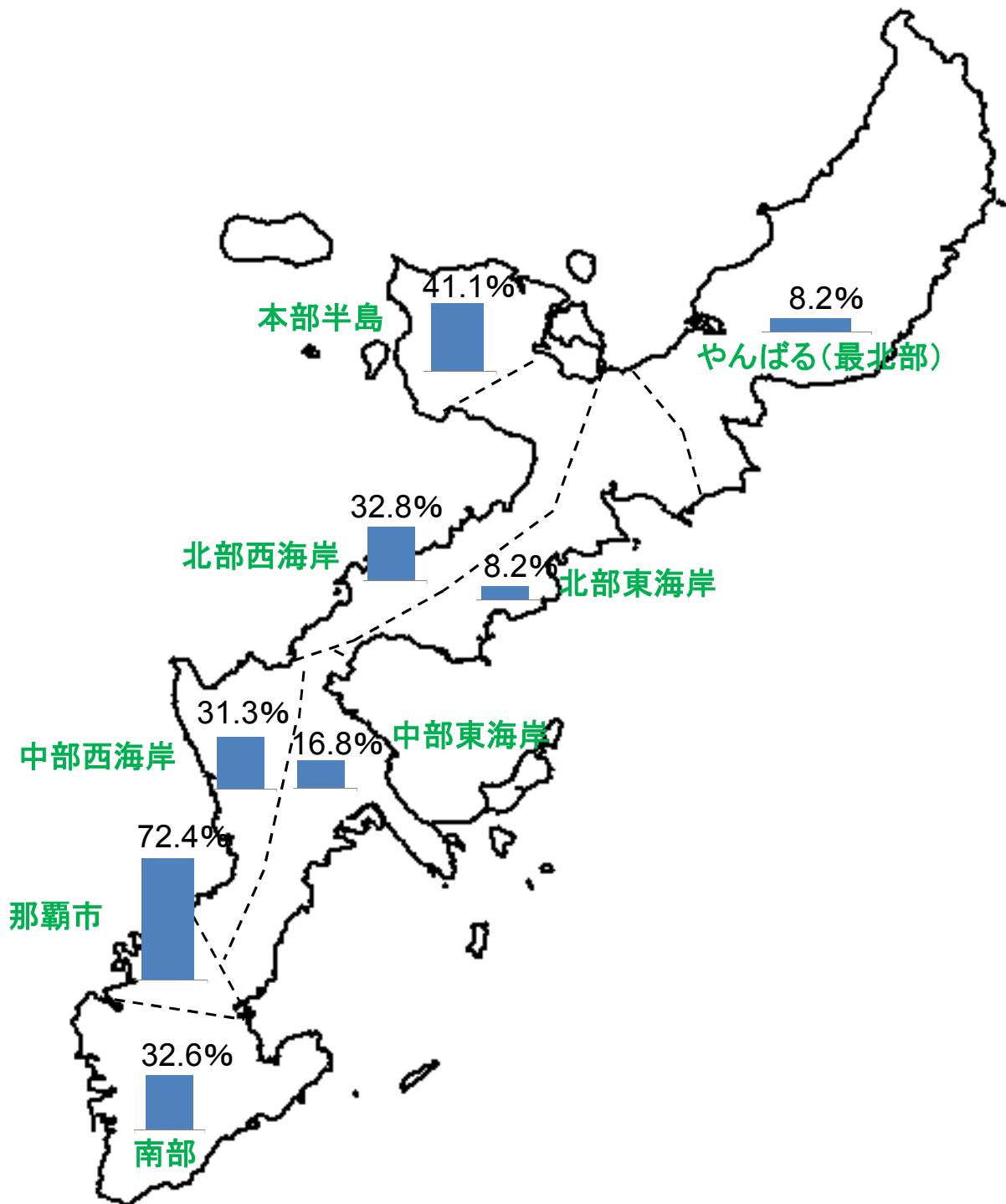
■ 宿泊施設の客室数は、那覇市が最も多く、次いで恩納村が多い。



(9) 観光

② 観光客訪問地域

■本島内の訪問地域については、「那覇市」が最も多く、次いで、本部半島、「北部西海岸」、「南部」、「中部西海岸」と続いている。



回答者が複数の回答している場合があるため、合計値は100%にならない。

(9) 観光

③ レンタカー利用者の目的地と地域別トリップ頻度

■ レンタカー利用者の来訪先は、那覇市周辺（国際通り～新都心付近）や北部地域の西海岸沿いが多い。

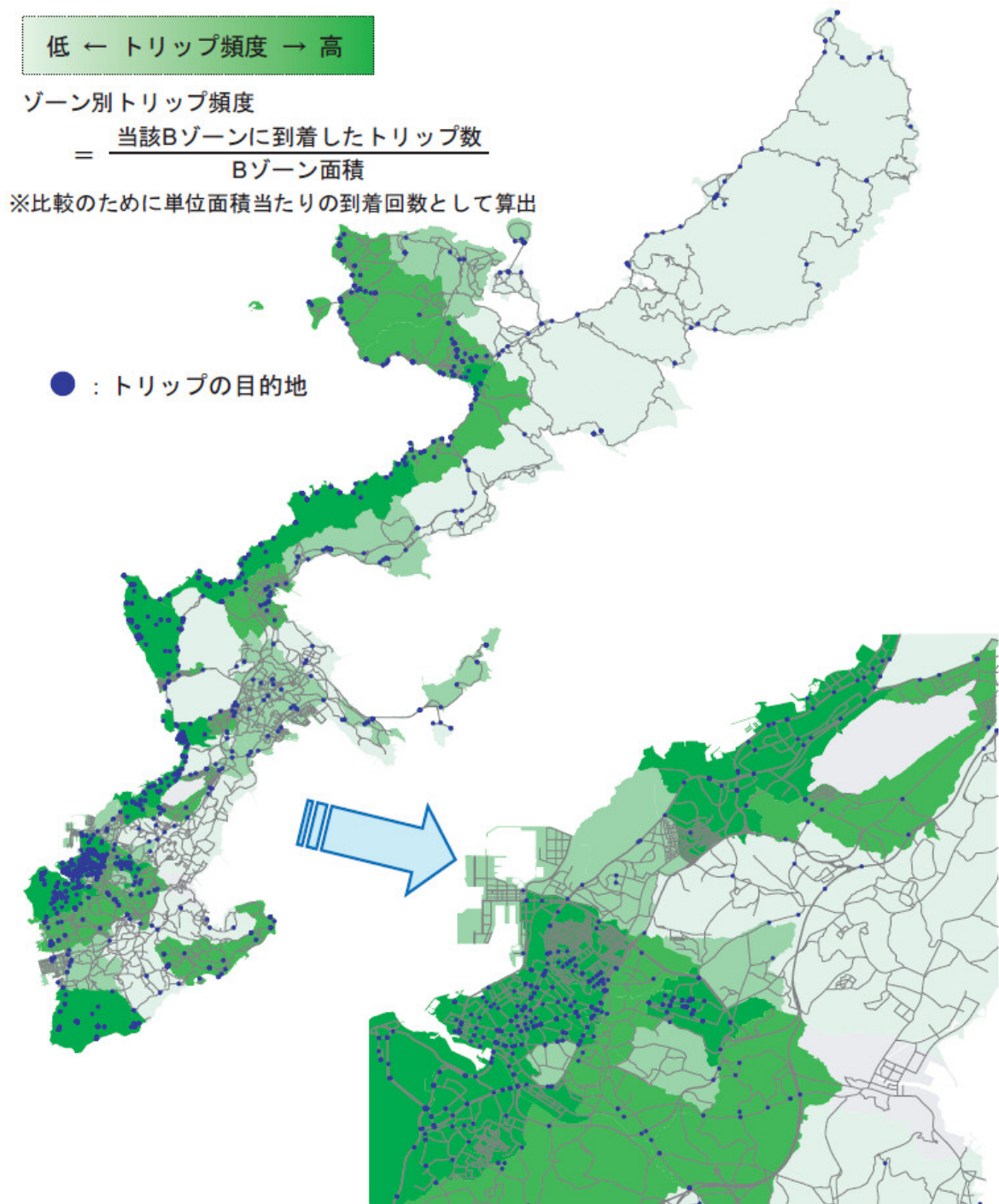


図 2-108 レンタカー利用者の目的地と地域別のトリップ頻度
資料 第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査報告書 平成21年3月

参考 最近の開発事例(新聞報道等)



イオンモール沖縄ライカム開業

H27.4.26 琉球新報

波及効果に期待
 沖縄県那覇市に新しく開業したイオンモール沖縄ライカムは、約4000台の無料駐車場を備え、約100店舗が出店する。開業後、周辺地域の活性化や観光客の増加に期待されている。また、地域の経済発展にも貢献する見込みだ。



新たななまら



テープカット



車列

イオンモール沖縄ライカム 基礎情報 (資料:イオンモール沖縄ライカムHPより)

イオンモール沖縄ライカム周辺には3つのバス停がございます。

- ①比嘉西原【徒歩約5分】
- ②山里(高速バス)【徒歩15分】
- ③イオンモール沖縄ライカムアライバルゲート

各主要行先路線ご案内

バス停	①比嘉西原	②山里(高速バス)	③イオンモール沖縄ライカム
全線バスターミナル	77	111	
鹿野名バスターミナル	27, 227, 80	127	
具志川バスターミナル	21, 23, 223, 110, 99	113	21
港瀬	31		
備天間	21, 23, 27, 31, 77, 99, 227, 223, 110, 80		21, 92
古島駅前	21, 98	918	21
本もろまち駅前	21, 98, 223, 227		21
農産北口	21, 27, 77, 90, 110, 90	918	92
那覇バスターミナル	21, 23, 27, 31, 77, 99, 110, 80		92, 152
那覇空港 Naha Airport	23	111, 113, 123, 127	152
とまりん	21, 23, 27, 80, 110, 77	918	21, 92

●一院線バス ●沖縄バス ●地域バス(沖縄バス) ●東洋バス ●個人路線運行バス



無料駐車場 約4000台

参考 今後の開発動向(新聞報道等)

H27.7.18 琉球新報

USJ 来年着工計画



ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)が、来年(2028年)に沖縄県浦添市に建設する予定のテーマパーク「USJ 沖縄」の着工計画を発表した。同社は、2027年に着工し、2029年に完成予定としている。このプロジェクトは、同社のグローバル戦略の一環として、アジア市場への拡大を図るための重要な取り組みと見られる。

知事に支援要請

CEO、沖縄進出を表明

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)のCEO、デビッド・ヤコブソン氏が、沖縄県知事に支援を要請する旨の声明を発表した。ヤコブソン氏は、沖縄の観光資源と人材を高く評価し、同社のテーマパークを沖縄に進出させることで、地域の経済活性化に貢献したいと述べている。

H27.7.18 琉球新報

インフラ 課題も

インフラ整備の課題は、交通手段の確保、特に鉄道網の充実が重要とされている。また、観光客の増加に伴う道路の渋滞や、公共交通機関の混雑も課題の一つとして挙げられている。政府や自治体は、これらの課題を解決するための政策を検討している。

「鉄道議論、加速を」

経済界、歓迎も競合懸念

鉄道の議論が加速している。経済界からは、鉄道が観光客の移動を支える重要なインフラとして歓迎されている。一方で、既存の交通事業者からは、競争が激化する懸念も示されている。政府は、両者の利益を調整しながら、持続可能な鉄道システムを構築する方針を示している。

H27.10.1 沖縄タイムス

サンエー、浦添西海岸へ

キンザー埋め立て地 市が選出

果内最大級の店舗に

サンエーは、浦添市西海岸のキンザー埋め立て地に、果内最大級の店舗を建設する計画を発表した。この店舗は、地域の商業活性化に大きく貢献すると期待されている。



H27.1.17 沖縄タイムス

計画中断リゾート着目

沖縄魅力

リゾート開発の計画が中断しているにもかかわらず、沖縄の魅力は依然として高く評価されている。観光客は、自然豊かな環境と独特の文化を体験したいと求めている。地元企業は、観光産業の再生に向けた取り組みを進めている。

国内外資金で再開模索

県内における主なホテル開発計画

県内における主なホテル開発計画の概要を示す図表。国内外からの資金調達を模索しながら、観光客の増加に対応するためのホテル建設が進められている。

ホテル名	所在地	開発計画
ホテルA	浦添市	2028年着工予定
ホテルB	那覇市	2027年着工予定
ホテルC	糸数町	2029年着工予定

H27.5.23 琉球新報

MICE 東浜決定

県、東海岸発展後押し

MICE(会議・インセンティブ旅行・イベント)の拠点として、東浜地区の開発が決定された。県は、この開発を機に東海岸の観光産業を大きく発展させる方針を示している。

